

427

つたが、何故か射撃を思ひ止まり忽ち捕へられた。他の戦友は中途力盡き溺死の悲運に陥つて了つたといふのである。爾来、少尉に對する監視は頗る嚴重と極め、殊に彼の自殺を最も懼れてゐると、又南島の尋問に對しては一切答へた軍服を着用せしめ銃殺して呉れと、口辭に言つてゐると謂はる。甚ねテネーリに於て、一軍大佐から某日本人interneeに對し、日本軍人の自殺の動機は何んであるかを尋ねに折り、同人は坂巻少尉は軍服を脱ぎ非戦闘員の衣服を着用いつた。現状では、断じて自殺にはおまいと述べてゐるが、自來南島に於てもやや安堵はするものゝ如く監視に一人の緩和が見られるに至つた。次に其の事實であるや否やは茲に保証の限りではないが、一つのデマとして記して置とも収容所生活の一種苦痛と思はる。又曾根からの草履及びタンセル、棉衣から受取る。

七月十七日(金)

破損した義齒と切角軍送局で修繕はじけられもつ。今度は口腔に合はず使用する事ができぬ。山田少佐から更に交渉の上、直に貫一少佐に於て居るの末に何等の消息が来い。従つて此處約十日間は倉庫に頗る不便で全く閉口にてゐる。

去つた日のThe Oregonianに東京九日Official Japanese WirelessとてINS接受の報道に依り、昨側交換船伊太利汽船 Conte Verde 号及び浅間丸

日本側交換船

報告

428

ツニ隻は本晩日(七月九日)米口人を乗せて何れも
インガボアを出帆した。

右伊太利船の出帆は去。六月にも傳へられた存在
あったが、何れも真相が全く了解し難い。又今朝、田
岡新船支店へ尋ねて見ると、第二回交換船は、八月
末か若くは九月初旬に成るものと思はれるのだ。

故
三宅
七周
太郎
さん

今日は故三宅太郎君の七周年にあつて、義弟
若田君と姑の友人相談の上、午後七時から第一会
で石田日天(日蓮宗僧侶)氏と招き追悼会と
催した。因は此の境遇に在つて尚且つ此の友情は
故人の徳と共に、民族意識の一表露である事は疑
ふべくもない。何分にも不自由な境涯に拘束の同士で
あるから竟の如くふらふら、其れでも一通りの励みと
式ねソーダにオレンジのお土産を、やるふいと得るのは
何よりである。正面に各人の手とつてスモスの花
が供へられ更には淋しい感と催したものである。故人の
末夫人はミササに拘禁中であり、長男は兵役に服し、
娘は立派な令嬢より Assembly に送られてゐる。文字通り
の一家離散だ。

七月十一日(土)。

三宅村長が、軍令に適合せんかの更に同胞側を
顧みないかの如き行動は、僕等にとって全く嘔吐を催
す堪え難い一平実だ。今朝の兵役の如き頻りに人質と
解誘し、供もゴマ代にするから希望者お出なさい